

Title	日露交渉におけるポジティブ・ストラテジーの批判的 談話分析：東方経済フォーラムの冒頭演説を題材に
Author(s)	セメノワ, アナスタシア
Citation	大阪大学言語文化学. 2022, 31, p. 49-66
Version Type	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/87494">https://doi.org/10.18910/87494</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

## 日露交渉におけるポジティブ・ストラテジーの批判的談話分析

—東方経済フォーラムの冒頭演説を題材に—\*

セメノワ アナスタシア\*\*

キーワード：日露交渉、批判的談話分析、言語ストラテジー

### **Критический дискурс-анализ использования позитивных стратегий в японо-российских переговорах: на примере вступительных речей на Восточном экономическом форуме**

Цель данного исследования – провести критический дискурс-анализ языковых стратегий, примененных в японо-российских переговорах периода правления Абэ и Путина, которые несмотря на активизацию, не привели к решению вопроса мирного договора. Для этого в качестве материала исследования использованы приветственные речи, произнесенные Синдзо Абэ на Восточном экономическом форуме в 2018-19 гг. Материалы были отобраны на языке оригиналов, что позволило автору рассмотреть применение речевых стратегий в их первоначальном виде. Значительное внимание уделяется реализации позитивных стратегий и реакции на их принимающей стороны в лице президента Российской Федерации Владимира Путина. В статье приводится описание двух позитивных стратегий, использованных в речах Синдзо Абэ, а именно – «поиск общности взглядов» и «призыв к созданию светлого будущего». Общность взглядов Японии и России в речи Синдзо Абэ путем цитирования четверостишия Федора Тютчева «Умом Россию не понять» представляется в «вере, доверии», Абэ утверждает, что «нужно верить Японии». Также Синдзо Абэ в конце своих речей традиционно призывает Путина к решительным действиям, чтобы выполнить обещание заключить мирный договор, данное двумя политиками на саммите АСЕАН в 2018г., и обеспечить светлое будущее двух стран, таким образом создавая свой положительный облик. В результате проведенного анализа выявлено, что хоть и использование позитивных стратегий в речи Абэ вызвало положительный отклик в виде оваций у публики, выраженное со стороны Путина несогласие привело к тому, что позитивные стратегии Абэ не только не показали

\* A Critical Discourse Analysis of Positive Strategies Used in Japanese-Russian Negotiations: Focusing on Opening Statements at Eastern Economic Forum (СЕМЕНОВА Анастасия (SEMENOVA Anastasia))

\*\* 大阪大学大学院言語文化研究科博士後期課程

существенного результата, но также были использованы для создания негативного образа японского правительства Владимиром Путиным. Так, Путин оценил просьбу Абэ «верить Японии» как «действительно доброе пожелание», но напомнил о том, что российскому правительству необходимо учитывать такие внешние факторы, как влияние США на Японию. В ответ на красноречивые призывы Синдзо Абэ проявить решительность к заключению мирного договора, Владимир Путин цитирует слова Абэ о том, что «нужно менять подходы» и неожиданно для японской стороны предлагает заключить мирный договор до конца года без предварительных условий. Японское правительство ожидаемо не приняло к рассмотрению предложенный план, но это позволило создать цепочку событий «Путин предлагает мирный договор – Япония отказывается», которая имплицитно возлагает ответственность за застой в переговорах на японскую сторону. Результаты данного анализа позволяют понять, как были задействованы языковые стратегии в российско-японских переговорах периода правления Абэ и Путина и как в речах обоих политиков отображается идеологический и социально-политический контекст того периода. В дальнейшем планируется таким же образом провести анализ применения позитивных стратегий Владимиром Путиным, чтобы сопоставить сходства и различия в стратегическом использовании языка в дипломатическом дискурсе обеих стран.

## 1 はじめに

2020年安倍元首相の辞任を機に、「新しいアプローチ」というスローガンを掲げて行われていた日露平和条約締結交渉の安倍・プーチン時代は、平和条約を締結する目標には至らず、安倍首相の辞任を迎え、一旦幕を下ろした。日露交渉内容とは裏腹に、両陣営には長い間続いている日露交渉を停滞的ではなく日露関係が良好であり前向きなものであることを印象づけようとする意図が見られ、その意図に適った機能を有する言語的な操作（Шейгал 2000, van Dijk 2006 など）が観察できる。

しかし、2カ国の国家指導者によって行われる外交イベントを扱い、その特徴を明らかにする研究は十分に行われてきておらず、特に日本とロシアのように異なる文化的背景とイデオロギー<sup>1</sup>を持っている国家指導者による共同記者会見や会合がどのような特徴を持つのかは解明されているとは言い難い。米中に関しては、その共同記者会見の批判的談話分析（Bhatia 2006）があるものの、隣国である日本とロシア連邦による日露共同記者会見や会合に関する研究は管見の限り見られない。そこで本稿は日露交渉を背景

<sup>1</sup> 本稿ではイデオロギーをグループのメンバーが共有する社会的表象とする（詳しくは、van Dijk, T. A. (1998) を参照のこと）。

とした外交イベントを分析データとして設定し、先行研究で議論されてこなかった点を解明することを目指す。

## 2 先行研究およびリサーチ・クエスション

外交イベントにおける国家指導者の演説は、二国が持つ関係を維持、あるいは向上させるため、さまざまな言語ストラテジーを駆使するが、一方で演説に自国のイデオロギーや利益も反映しなければならない。Putnam (1988) によると、このようなバランスを保たないといけない課題は政治家が行う国際レベルのコミュニケーションの特徴であるという。本研究では、国際レベルで話される政治家の演説や発言においてこのバランスがいかにか維持されているかを解明し、外交交渉で使われている言語の特徴だけでなく、交渉に参加する側のイデオロギーと文化・社会的な文脈にも焦点を当て、分析を行う。

Bhatia (2006) は、批判的談話分析 (Critical discourse analysis: CDA) の視点から異なる政治的な背景を持つ指導者が政治的記者会見においてどのように互いと交渉するか、どのようにフェイスを保持するかを分析する。彼女は、米中共同記者会見における主要なテーマを分析した結果、「positivity (ポジティビティ)」、「influence and power (影響と権力)」、「evasion (回避)」といったテーマとポライトネス理論を政治談話に応用した Harris (2001) の見解を援用し、そのテーマを実現させる言語ストラテジーについて考察を行った。本稿では、在任中に平和条約を結ぶという決意を示していた安倍元首相およびプーチン大統領によって行われてきた日露交渉における言語的な操作を分析するため、そのストラテジーの内、ポジティブ・ストラテジーに焦点を当てる。ポジティブ・ストラテジーとは、政治的な問題やイデオロギー的な相違を持っている二国の間に国交、調和や合意をアピールするために使用される言語ストラテジーである<sup>2</sup> (Bhatia 2006)。日露交渉におけるポジティブ・ストラテジーの分析によって日露交渉における言語的な操作のメカニズムについて理解を深めることができると考えられる。

Chilton (1990) は、1986年に行われた米ソの国家指導者による中距離核戦力全廃条約の前の外交エピソードをめぐる演説を分析する。その演説の主要な聴衆は国内の聴衆であったため、Chilton (1990) が分析したポジティブ・ポライトネス・ストラテジーは国内においての“unity” (団結) や “solidarity” (連帯感) を生み出すために使用されている。

Chilton (1990) および Bhatia (2006) の研究では、外交の場面において言語ストラテジーの使用が見られると主張され、その分類や特徴的な事例が取り上げられる。しかし、これらの先行研究では通訳者による演説のテキストの再生産が生じるという要素

<sup>2</sup> 本稿において分析するポジティブ・ストラテジーはポジティブ・ポライトネスのストラテジー (Brown&Levinson, 1987) と違い、外交という場面に使用される言語ストラテジーを指す。

(Wadensjo 1995、吉田 2008) が検討されていないため、分析で取り上げられる英訳のテキストではオリジナル・オーサーが使用したストラテジーがいか言語化されたのかという点が不明である。さらに、Chilton (1990) および Bhatia (2006) の研究では使用されたストラテジーの分類が提示されたが、批判的な視点からはそのストラテジーの評価が行われなかったため、実際にスピーカーが使用目的を達成したかどうかという点も不明である。通訳されたテキストにおいて生じ得る障害を避けるため、政治家が話したオリジナル・テキストを分析対象として扱う必要がある。

以上を踏まえ、本稿では、在任中に日露平和条約を締結する決意を表明した安倍元首相によるポジティブ・ストラテジーの使用およびそれに対するプーチン大統領の反応を相互行為として分析することで、安倍元首相が行ってきた対ロシアのポジティブ・ストラテジーが功を奏しなかった一因を明確にする。研究目的を達成するため、次のリサーチ・クエスチョンを設定する：① 外交イベントにおける安倍元首相の冒頭演説ではどのようなポジティブ・ストラテジーが使用されたか、② 安倍元首相の①に言説に対してプーチン大統領はどのような反応を示したか、③ 分析データにおいて、安倍・プーチン時代の交渉にはどのような問題点が見られるか。以下、分析データに表出したストラテジー別に分析し、考察でリサーチ・クエスチョンの解を示す。

### 3 分析データおよび分析方法

#### 3.1 分析データ

本稿では、安倍元首相の辞任前に行われた東方経済フォーラム（2018年9月12日および2019年9月5日）における安倍元首相の冒頭演説を分析データとして扱い、その演説で使用されたポジティブ・ストラテジーとそれに対する相手のプーチン大統領の反応を分析する。東方経済フォーラムとは、ロシア極東部への外国からの投資を促すために毎年ウラジオストク市で開催される国際会議である。その会議の全体会合では、参加するアジア諸国の国家指導者は冒頭演説を行い、そこでロシアとの経済協力やアジア地域の発展をめぐる質問に答える。東方経済フォーラムにおいて安倍元首相が日露経済協力や文化交流について演説を行った際にポジティブ・ストラテジーを使用していたと推測できる。

#### 3.2 分析方法

本稿では、批判的談話研究および政治的談話分析の手段を用いる。Charteris-Black (2014) によれば、公的なコミュニケーション (public communication) の批判的談話分析は暗示的な意図 (目的) と特定の語彙選択との関係性を明らかにするという。さらに、

批判的談話分析は、スピーカーの語彙選択、演説が行われた社会的コンテキストおよびスピーチがもたらした影響を明らかにすることで、スピーカーが狙う目的を推測することを可能にするという。Charteris-Black (2014) の批判的談話分析の段階を援用し、次の分析の手順を立てた。

まず、分析データとして扱う東方経済フォーラムをめぐる社会・政治的なコンテキストを明確にする。例えば、日露交渉の状態、国内および国際のニュースや話題になっているトピックを取り上げ、それぞれのポジティブ・ストラテジー使用の背景を確認する。

次に、安倍元首相の冒頭演説において使用されたポジティブ・ストラテジーの中で、プーチン大統領によって直接・間接的な引用の形で反応が見られたポジティブ・ストラテジーを中心にテキスト分析を行う。ここでそれぞれの政治家の発言においてはどのような言語手段が利用され、どのような描写が構築されたかを具体的に見ていく。

最後に、リサーチ・クエスチョンに従って、分析結果の考察を行う。分析データにおいて日本とロシアのそれぞれの描写と言及される政治的・イデオロギー的な立場を明確にし、在任中に平和条約の締結を目指した安倍元首相とプーチン大統領によって行われてきた日露交渉においてどのような問題点が見られるかを解明することを目指す。

## 4 分析

本稿では、2018年9月12日および2019年9月5日に行われた安倍元首相の冒頭演説においてプーチン大統領による反応が観察された「共通の見方を探す」および「将来における友好的関係のアピール」というポジティブ・ストラテジーのそれぞれのエピソードを中心に分析していく。なお、他のポジティブ・ストラテジーの使用も確認されたが、プーチン大統領によって明らかな反応が見られなかったため、本稿では割愛する。

### 4.1 「将来における友好的関係のアピール」とその結果

ポジティビティを通して、両国の国家指導者は明るい未来を提示する (Bhatia 2014)。安倍元首相も、約70年間日露交渉が停滞していることには深く言及せず、日露交渉を行なうイベントにおいて将来の展望や平和条約が締結できた将来に注目を向けることが多い。このように東方経済フォーラムにおける安倍元首相の演説では、プーチン大統領に向かった意向形動詞を使った問いかけと呼びかけが多く見られる。この手段は安倍元首相の平和を熱心に訴えるキャラクターを創造していると言える。例えば、以下に2018年東方経済フォーラムにおける冒頭演説からの次の発言を見てみたい (抜粋1)。

### 抜粋 1

1. 安倍：プーチン大統領、もう一度ここで、たくさんの聴衆を証人として、
2. 私たちの意思を確かめ合おうではありませんか。
3. 今やらないで、いつやるのか、
4. 我々がやらないで、他の誰がやるのか、
5. と問いながら、歩んでいきましょう。

安倍元首相は34行におけるバラレリズムを使った問いかけおよび2と5行の「確かめ合おう」、「歩んでいきましょう」と言った意向形動詞を通して、プーチン大統領に平和条約の締結を推進させるよう強く訴える。しかし、プーチン大統領に対してこのように積極的な行為に招待をし続けるが、プーチン大統領にはその招待に応じる機会が用意されていないため、安倍元首相が一人で平和を訴えるという印象が残る。このような訴えは、お互いの係争地に関する立場が正しくないと確信している日露双方が行う交渉において特徴的な言語使用であると考えられる。

安倍元首相の冒頭演説後に質疑応答の時間に、係争地における共同経済活動について質問があった。その質問に対し、安倍元首相は、2016年にプーチン大統領が来日した際に、2人ともアプローチを変えないといけないと同意したことに言及し、共同経済活動がその目標を実現する方法であると述べた。その後、司会者のブリリョフ記者はプーチン大統領に、係争地にアメリカ軍が駐留される可能性が日露会談において議論されるかどうかについて尋ねた。それに対してプーチン大統領は、「まず、晋三が正しいと言いたい：彼も、私も平和条約の締結まで至ることを望む」と述べ、アメリカのミサイル防衛システムの推進を含む安全問題も議論されていると説明した。次に、プーチン大統領は突然、前提なしで年内に平和条約を締結しようと提案した。

### 抜粋 2

1. プーチン：信じられないと思いますが、正直に言うと、こんなシンプルな考えで  
すが、たった
2. 今、たった今この場で頭に浮かんできた。  
Вот, не поверите, вот честно вам скажу, это такая простая мысль, но она пришла мне в голову прямо сейчас, вот прямо сейчас здесь.
3. 領土問題を解決しようとしていることが70年間続いています。1956年の共同宣言
4. が言及されました。それがただ署名されただけでなく、日本の国会と

ソビエト連邦

5. の最高会議で批准されたものでした。あとで日本の側はえーとその宣  
言の実行を
6. 拒否しました。私たちは今その問題を検討することに戻りました。  
Вот 70 лет мы пытаемся выйти на решение спорных вопросов. Вы упоминали о декларации 56 года. Она же была не просто подписана, она была ратифицирована и парламентом Японии, и Верховным Советом СССР. Потом японская сторона мм от выполнения этой декларации отказалась. Мы сейчас вернулись к рассмотрению этих вопросов.
7. そのように、私たちは70年間交渉を続けています。晋三が言いました：  
アプローチ
8. を変えましょう。そうしましょう。私の頭に浮かんだアイディアは次の通りです：
9. 平和条約を締結しましょう。ま、今ではないが、年末まで。何の前提条件を
10. つけずに。  
Так вот 70 лет мы ведём переговоры. Синдзо сказал: давайте поменяем подходы. Давайте. Так вот какая идея мне пришла в голову: давайте заключим мирный договор, – ну не сейчас, но до конца года – без всяких предварительных условий.
11. 聴衆：(拍手)  
(Аплодисменты)
12. プーチン：わたしは聴衆のみなさんに拍手で支持してくださいとはお願いもしませんでした。
13. 皆さん、ご支持に感謝します。  
Я даже не просил (.) поддержать аудиторию меня аплодисментами.  
Благодарю вас за эту поддержку.
14. しかるのちにその平和条約のもとに友人として領土問題を解決する努力を続けまし
15. よう。これで70年間も処理できない問題をえー解決することがもち  
ろん容易になる
16. のではないかと私はそう思います。  
А потом на основе этого мирного договора как друзья продолжим



решать все спорные вопросы. И разумеется, мне кажется, что это облегчило бы нам ээ решение всех проблем, с которыми мы не можем справиться на протяжении 70 лет.

ここでは、安倍元首相による「確かめ合おう」、「歩んでいきましょう」といった抽象的な訴えと比べ、プーチン大統領は「年末まで」といった期限を示し、平和条約を締結した上で領土問題を解決するというより具体的な提案を出したと言える。以下で、この提案の詳細を見ていく。

抜粋2の7-8行において「晋三が言いました:アプローチを変えましょう。そうしましょう」のように司会者との質疑応答から安倍元首相の言葉を引用することで、安倍元首相の呼びかけに積極的に答える形で発言が展開していく。7行における「そのように、私たちは70年間交渉を続けています」および15行における「これで70年間も処理できない問題をえー解決することがもちろん容易になるのではないかと私はそう思います」のように、日露平和条約交渉が長い期間続いていることに再び言及し、今までの交渉のアプローチは結果を出していないことを聴衆に思い出させる。

その上で、3-6行から見ると、その責任が日本側にあると仄めかされていることがわかる。プーチン大統領が1956年の日ソ共同宣言を取り上げ、その宣言を日本もソ連も批准したと主張する。日ソ共同宣言は日ソ両方が戦争状態を終結するとともに国交を正常化させるという内容である。平和条約の締結まで当時至らなかったが、平和条約締結後にソ連が歯舞群島と色丹島を日本に渡すという前提で交渉を続けるという合意がなされた。しかし、その後さまざまな政治的な要因で平和条約の締結が先送りになった。その日ソ共同宣言後の日露交渉に関するロシア政府の立場は、プーチン大統領による「あとで日本の側はえーとその宣言の実行を拒否しました。私たちは今その問題を検討することに戻りました」(5-6行)という発言に反映され、日露交渉の停滞的な状態が当時日本側の行動によって発生したものであると示唆されている。

プーチン大統領による提案の単純性やこれがプーチン大統領の自らの即興的な考えであることが「信じられないと思いますが、正直に言うと、こんなシンプルな考えですがたった今、たった今この場で頭に浮かんできた」(1-2行)および「私の頭に浮かんだアイデアは…」(8行)によって強調される。ここでプーチン大統領は積極的に具体的なアイデアを提案できる政治家として自分のイメージを構築している。また、「わたしは聴衆のみなさんに拍手で支持してくださいとはお願いもしませんでした。みなさん、ご支持に感謝します」(12-13行)という発言でそのイメージをさらに強調している。

一見すると、プーチン大統領は日露交渉を発展させることに積極的な姿勢を示し、拍

手した聴衆にアピールすることができたと考えられる。聴衆の前で日露平和条約を締結させる意思を確かめることで、安倍元首相の呼びかけに対する即応的な答えになったと言える。だが、その提案は日本政府から否定的な反応を受け、考慮に入られるまでに至らなかった。

安倍元首相は、プーチン大統領が提案を行なった後に発生した拍手に笑顔を示したが、その提案に対する発言の機会是与えられず、発言を希望することもなかった。しかし、日本政府からの反応は速かった。当日午後の内閣官房長官記者会見において、当時の菅義偉官房長官は、プーチン大統領が前提条件をつけずに平和条約締結を提案したことに對し、「政府としては北方四島の帰属の問題を解決して平和条約を締結するという基本方針を引き続き粘り強く交渉していきたい。この主張には変わりはない」と述べ、その提案に否定を表した。その主な理由の1つは、プーチン大統領が提示したシナリオを実現すると、係争地の帰属問題が先送りになることであると推測できる。

このトピックをめぐる両国のメディアの反応を見ると、2つのことがわかる。日本のメディアはプーチン大統領の提案が唐突であることを主張する一方、ロシアの政府系メディアは日本が断ったことを強調した。

表1「前提付けず平和条約締結」の提案をめぐる日本とロシアのメディアの見出し

ロシア	日本
<ul style="list-style-type: none"> <li>• Путин предложил Токио мир. Почему японцы отказались (プーチンが東京に平和を提示した。どうして日本人が断ったか) РИА Новости / ロシア通信社ノーボスチ (2018年9月12日)</li> <li>• <u>Власти Японии не поддержали идею Путина о мирном договоре без условий</u> (日本の政府は前提なしで平和条約を結ぶプーチンのアイデアを支持しなかった) РБК / ロス・ビジネス・コンサルティング (2018年9月12日)</li> <li>• Япония отвергла предложение Путина о мире (日本はプーチンの平和提案を断る) Lenta.ru (2018年9月12日)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• (時時刻刻) 交渉停滞、ちゃぶ台返し いら立つプーチン氏、<u>突然の提案</u> 朝日新聞 (2018年9月13日)</li> <li>• 【前提なし平和条約】プーチン氏発言に日本は静観「思いつき」、安倍晋三首相の面前に不快感も 産経新聞 (2018年9月12日)</li> <li>• 露大統領の<u>唐突な提案</u> 領土交渉の「てこ」を失う 毎日新聞 (2018年9月14日)</li> </ul>

表1からわかるように、ロシアのメディアは、「日本人が断った」、「日本の政府は（中略）支持しなかった」、「日本は（中略）断る」のようにプーチン大統領の提案が日本側によって拒否されたことを強調している。このことから、プーチン大統領の唐突な提案は日露交渉に刺激を与えることには成功しなかったが、「唐突であった」ということに着目せず、日本を主語として「～しない」という否定的な動詞を使用することにより、ロシア国民に対してロシアに協力しない日本の否定的なイメージを配信することに成功したと言える。つまり、プーチン大統領はロシア国民に対して、日本が日露平和条約を締結しようという自身の提案に応じなかったと強調することで、日露交渉が固着状態している責任は日本の側にあるかのように印象付けていると言える。また、ロシアのメディアは「プーチンが東京に平和を提示した」のような見出しを使うことから、ロシア国内ではプーチン大統領が積極的な行為をとった政治家として描かれていることが分かる。

ロシアの大統領およびロシア政府は日本の強固な立場をよく知っているはずであり、日本がプーチン大統領の「思いつき提案」に同意しないと十分に理解していると思われる。したがって、プーチン大統領の提案は文字通りの内容を推し進めることより、パフォーマンス的な機能を果たしたと言えるだろう。プーチン大統領は、安倍元首相の演説における平和条約締結への呼びかけに対して具体的なアイデアを提案するが、日本政府は断るというシーケンスが構築され、国際的な聴衆の前で演じられたと言える。

#### 4.2 「共通の見方を探す」とその結果

「共通の見方を探す」というストラテジーは、実際には相反する両国の関係を、合意がある健全な関係であるというイメージを与えるために使用される。「共通の見方を探す」というストラテジーは、Bhatia (2006) の「search for common ground」に相当するストラテジーであるが、分析において観察した「共通の見方を探す」ストラテジーの遂行は日露交渉に特徴的に現れており、そのストラテジーが使用された演説の背景、実行方法および異文化コミュニケーションの視点からの評価を詳細に見ていく必要がある。

ここで取り上げられる例は2019年の東方経済フォーラム全体会合において行われた安倍元首相の演説からのものである。2019年は日露交渉にとって多くのイベントが起こった年となったが、一方日露交渉を困難にさせたいいくつかの事件（クリル島住民の帰属を日本に変更するという安倍元首相の発言、ロシアのメドベージェフ首相（当時）による択捉島の訪問など）も発生した。日露間の信頼の回復・醸成を促進させる目的を達成するため、安倍元首相は2019年東方経済フォーラムの演説において19世紀の有名なロシアの詩人であるフョードル・チュッチェフの詩を引用している。その詩はロシアの

特殊な国民性について書いた詩であり、ロシア人に良く知られている言葉である：

### 抜粋 3

1. 安倍：さて、お集まりの皆様。今から引用するのは、皆様よく御存じの四行詩です。
2. ロシアは、頭では分からない
3. 並の尺度では測れない
4. 何しろ色々、特別ゆえ
5. ただ信じる。それがロシア [との付き合い方だ]
6. 聴衆： [ (拍手 8 秒) ]
7. 安倍：さて、この有名な詩の「ロシア」を「日本」に置き換えていただきたいと思います。
8. hh
9. 聴衆： (拍手 5 秒)
10. 安倍：日本を、ただ信じるのだとして、何をどう信じればよいのでしょうか。
11. それについて、3つ申し上げます。日本とは、第1に、**「ヴァンガード」**です。
12. 高齢化のような、皆さんがいずれ直面する問題に、世界で誰より先に取り組まざる
13. を得ないからです。第2に、第一の延長で、日本は **「ソリューション」**です。
14. 皆さんが抱える問題に対し、いろんな解が、日本にはあります。
15. 第3に、日本は **「パートナー」**です。皆さんが、信を置ける国。
16. 一度約束を結ぶと、子々孫々守って、日本は堅固不拔です。

ここで引用される詩は「ロシアは特殊なので、ロシアを論理的に理解することができない、信じるしかない」という意味を持っている。安倍元首相の演説では、まず、チュッチェフの引用の後、「さて、この有名な詩の「ロシア」を「日本」に置き換えていただきたいと思います」(7行)と述べられ、「ヴァンガード」(11行)、「ソリューション」(13行)、「パートナー」(15行)といった日本の役割が明示されている。「ヴァンガード」という役割の裏付けとして、日本が先進国として「高齢化のような、皆さんがいずれ直面する問題に世界で誰より先に取り組まざるを得ないからです」(12-13行)ということが挙げられる。ここでは、ロシアを含む日本ではない国々が「皆さん」に入り、先進国としての日本のステータスは「世界で誰より先に」という言葉で反映され、「ソリューシ

ン」の説明によってある問題に対して先に経験したことにより熟達者 (expert) となった日本と、それを経験していない初心者 (novice) の違いが鮮明されることによって、日本の立ち位置が優位に位置づけられている。また、「パートナー」の解説は約束を守る力強い国、チュツチェフの詩からキーワードを取り上げ、「信を置ける国」としての日本のイメージが構築されたと言える。このことから、安倍元首相の演説において、日本を優れた先進国として表出することは“positive self-presentation” (自己の肯定的表出) である一方で、まだ先進国が抱えている問題に直面していないロシアを含む国々の表出は“negative other-presentation” (他者の否定的表出) であると言える (van Dijk 1993, 1997)。

この点に関し、ロシア側の反応はどうだったか。まず、今回のイベントにおいて安倍元首相から馴染みがある詩を聞いて、プーチン大統領も聴衆も笑顔で拍手を送った。プーチン大統領と聴衆の反応を観察すると、チュツチェフの詩を引用する言語ストラテジーは聴衆の歓喜を引き出すことに成功したと言えるだろう。ただし、演説に込められた「日本に信を置く」という政治的訴えがプーチン大統領によって受け止められたとは言えない。次に、プーチン大統領はその問題点をどう指摘するかを見ていく。

#### 抜粋 4

1. プーチン：私たちは「日本に信を置く」のような善良な言葉に理解を示し、本当に善良でとても良い願いだと実際に信じています。  
Мы с пониманием относимся к таким добрым словам, что в Японии нужно верить, и мы действительно верим, что это действительно доброе и очень хорошее пожелание.
3. しかし、平和条約の締結に関する問題点が数多くあります。私たちにとって残念
4. ながら、それらの問題点は、二者間の関係にとどまるものではありません。  
Но есть масса вопросов, связанных с заключением мирного договора. Они не лежат только в плоскости двусторонних отношений, к сожалению для нас.
5. 軍事的な、そして、防衛上の、および、安全保障上の問題点があります。  
Есть вопросы военного, оборонного характера, вопросы безопасности.
6. そうすると、私たちは第3国の立場と合衆国を含む第3国に対する日

7. 本の責務を  
考えなければなりません。  
И здесь мы должны учитывать позицию третьих стран и обязательств Японии перед третьими странами, в том числе перед Соединёнными Штатами.
8. そこで 20 – 30 年代にはすでに生まれていた別の善良な言葉があるこ  
とも思い出し
9. ていただきたいです：善良な言葉は結構だが、善良な言葉と Smith & Wesson が<sup>1</sup>
10. 緒の方が、善良な言葉だけよりずっと効果がある。  
А там кроме вот таких добрых слов есть и такие, напомню, они родились ещё в 20–30-е годы: доброе слово – это хорошо, но доброе слово и Смит-Вессон действуют гораздо эффективнее, чем просто доброе слово.
11. 私たちはそのことをよく分かるし、知っているし、考えなければなら  
ないです。  
Мы это хорошо понимаем, знаем и должны это учитывать.

ここでプーチン大統領はまず、抜粋 4 の 1-2 行において「私たちは「日本に信を置く」のような親切な言葉に理解を示し、本当に善良でとても良い願いだと実際に信じています」<sup>3</sup>のように、肯定的な言葉遣いから発言を始める。この部分において、安倍元首相の演説で発話された「日本に信を置ける」という言葉は「善良な言葉」として評価された。しかし、3 から 11 までの行において、プーチン大統領は反論を展開していく。4 行においてプーチン大統領が平和条約に関する問題点を「二者間の関係にとどまるものではありません」と指摘し、6 行で「合衆国を含む第 3 国」と明確にする。ここで「合衆国を含む第 3 国に対する日本の責務」という言葉を通して、ロシア政府の視点から日露平和条約締結交渉の障害になる日米関係の状態、つまり、日本がアメリカ合衆国の影響を受けているという意見が取り上げられる。次に、8-10 行で日本側が提供する「善良な言葉」は「Smith & Wesson」の比喩を通して実際には無力であると示唆される。「Smith & Wesson」はアメリカ合衆国最大規模の銃器メーカーの名であるが、ここでプーチン大統領はアメリカ合衆国のギャングスターであるアル・カポネの名言として知られている言葉を引用している。オリジナルでは、“You can get much farther with a kind word and

<sup>3</sup> 分析において抜粋以外の文章でロシア語を紙幅の関係上割愛する。

a gun than you can with a kind word alone”（やさしい言葉に銃を添えれば、やさしい言葉だけのときよりも多くのものを獲得できる）である。つまり、ロシア政府の視点から「日本は信を置ける国である」という善良な言葉に同意し難い理由は、日本政府が係争地にアメリカ軍の基地が移転または新設され軍に駐留される可能性を政治的立場から阻止できないからである。「約束を一度結ぶと子々孫々守るパートナー」といった日本の役割が提示されたが、ロシア国民が日本政府から期待する米軍をめぐる安全保障の約束は「パートナー」の描写には言及されなかった。このように、プーチン大統領は安倍元首相の演説で使用された言語ストラテジーが「ただの表面上の親切な言葉にすぎない」と暗示的に仄かしたのではないかと考えられる。

以上を踏まえ、安倍元首相の演説に用いられた「共通の見方を探す」というストラテジーは聴衆からはポジティブな反応を受けたが、ロシア連邦の大統領からその提案を否定されたため、日露外交交渉に使用されたストラテジーとしては効果がなかったと言える。

## 5 考察

### 5.1 安倍元首相によるポジティブ・ストラテジーの使用

本稿において、2018年と2019年の東方経済フォーラムにおける安倍元首相の冒頭演説を分析した結果、プーチン大統領によって反応が見られた「将来の友好的関係をアピールする」および「共通の見方を探す」といったポジティブ・ストラテジーの使用を明確にした。「将来の友好的関係をアピールする」というストラテジーを通して、安倍元首相の演説ではプーチン大統領に対する呼びかけや両国民の前で責任を誓う言説を繰り返し、明るい将来に向けた政治的指導者としての安倍元首相のイメージを構築した。「共通の見方を探す」というストラテジーによって、安倍元首相の演説ではロシアと日本の間の共通の価値観としての「信」が提示され、日本が信を置ける国として描写された。ここで安倍元首相はその主張を伝達するため、ロシアで有名な四行詩を引用し、聴衆とプーチン大統領から拍手と笑顔を引き出した。それにもかかわらず、両方のストラテジーにプーチン大統領から否定的反応があり、安倍元首相のストラテジーは、むしろロシア政府のイデオロギーの表明を引き出す土台になったと考えられる。このロシア政府のイデオロギーについて、次節の5.2で述べる。

### 5.2 プーチン大統領の反応

「将来の友好的関係をアピールする」というストラテジーに対し、プーチン大統領は日本の政府にとって唐突な提案を通して自己のイメージを高めるストラテジーを使用し

たことが観察された。他の東方経済フォーラムや共同記者会見における安倍元首相の演説において不可欠な要素である積極的な行動への呼びかけや将来の願望に比べ、プーチン大統領はより具体的な提案を行い、東方経済フォーラムに集まったグローバルな聴衆およびロシア国民の前に自己の肯定的かつ積極的なイメージを構築し、さらにメディアの報道からもわかるように、その平和条約の提案は日本政府のアピールを否定することによって成立することを示した。このことは、日本政府に対しネガティブなイメージを構築することにつながる。

「共通の見方を探す」に対するプーチン大統領の反論により、日本の外交政策が米軍に左右され、ロシア政府がそれを恐れていることを間接的に示した。それはプーチン大統領の「軍事的な、そして、防衛上の、および安全保障上の問題点」という言葉からわかる。日本とアメリカ合衆国というロシアのイデオロギー的な対立者との関係が日露関係に影響を及ぼさない保証がない限り、「信を置ける国」としての日本政府のアピールが功を奏さない結果にとどまることとなる。

### 5.3 安倍・プーチン時代の交渉における問題点

分析データに見られた安倍・プーチン時代の交渉における問題点の一つは、安倍元首相とプーチン大統領は長年の知り合いであり、在任中に平和条約を締結するという決意を表明していたにもかかわらず交渉の中で妥協や調整を試みず、政治的・イデオロギー的な違いの壁を越えることなく、自国の立場を維持することを重視していた姿勢を示したことである。以下で観察できた点を述べる。

安倍元首相によって使用されたポジティブ・ストラテジーはプーチン大統領によって肯定的に受け止められなかったため、ロシア政府との共通の見方や将来の友好的関係のアピールを提示することに失敗し、言語ストラテジーとして功を奏さなかったと考えられる。

安倍元首相のポジティブ・ストラテジーの使用を分析した結果、安倍元首相の演説では「皆さんがいずれ直面する問題に世界で誰より先に取り組みざるを得ないからです」という言葉によって、先進国のレベルで存在する社会的な問題にまだ直面していないロシアと、その問題に先進国として取り組み、解を持つ日本のイメージが作られる。また、演説の後半の部分に置かれる平和条約を締結まで推進させようという呼びかけが具体的な提案を提供できず、演説の儀礼的な要素になっていると言える。

一方、プーチン大統領の反論は、日本が提供する価値観やアピールを否定することで、自分の考えや立場をグローバル・アリーナに提示する機会を作っていた。例えば、安倍元首相が示したロシアと知識を共有したい姿勢や、日本がロシアの頼もしいパートナー



であるというアピールは、プーチン大統領により「無力の善良な言葉」として拒絶された。また、「合衆国を含む第3国に対する日本の責務」を言及し、プーチン大統領は安倍元首相が提供した「ヴァンガード」、「ソリューション」、「パートナー」である日本の強いイメージに対し、アメリカ合衆国の影響を受けている日本のイメージを構築する。さらに、プーチン大統領の反応の分析から、日露交渉が停滞的である責任を日本に転嫁し、相手に対し唐突な提案を述べることで自分のイメージを高める行動も明らかになった。

このように、双方の間で経済的・政治的協力を推進させることが目的の外交イベントにおいても、それを二人の政治家が自分の政治的な立場を強調する機会として扱い、その結果、両国間が合意に至らないという状況の継続をもたらしていた。

## 6 おわりに

本稿では、日露交渉において政治家が用いる言語ストラテジーを分析対象とし、政治的・社会的コンテクストに着目しながら、そのストラテジーの働きについて考察を行なった。本稿の関心は安倍・プーチン時代の日露交渉が功を奏しなかった要因が言語的な面においてどのように反映されているかを客観的に分析することである。友好を装う表層的な表現と、交渉の停滞という現実とは、日本とロシアの外交上の問題点としてよく知られているが、一方でこの問題点は2人の政治家のいかなる言語的な行動に反映されているかという分析は従来されてこなかった。本稿は、ポジティブ・ストラテジーとそれに対する反応について批判的談話分析の観点から検討し、そのメカニズムの一端を示すことができた。

本稿は、原語で実際に話されたポジティブ・ストラテジーの働きおよびそれに対する反応を解説することで、これまで理解が行き届かなかった日露外交や日本とロシアの異文化コミュニケーションにおける表層と含意について、理解の向上に貢献できると考えられる。本稿の関心は安倍元首相の演説で使用されたポジティブ・ストラテジーになっていたが、今後は本稿で提示した分析手順を利用し、Bhatia (2006) が示した他のストラテジーも含め、プーチン大統領の演説を分析対象として加え双方向的な分析を行いたい。また、本稿で扱われたデータのロシア語訳には問題が見られなかったが、今後は翻訳の客観性の視点から分析することも興味深いと考える。

## 参考文献

- 吉田理加 (2008). 「法廷通訳人のフッティングー模擬法廷データ談話分析」、『通訳翻訳研究』、日本通訳翻訳学会誌編集委員会編、vol.8, pp.113-132.

- Bhatia, A. (2006). Critical discourse analysis of political press conferences, *Discourse & Society*, vol.17(2), pp.173-203.
- Brown, P. & Levinson, S. C. (1978). *Politeness: Some Universals in Language Usage*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Charteris-Black, J. (2014). *Analyzing political speeches: Rhetoric, discourse and metaphor*. Basingstoke, UK: Palgrave Macmillan.
- Chilton, P. (1990). Politeness, politics and diplomacy, *Discourse & Society*, vol.1(2), pp.201-224.
- Harris, S. (2001). Being Politically Impolite: Extending Politeness Theory to Adversarial Political Discourse, *Discourse & Society*, vol.12(4), pp.451-72.
- Putnam, R. (1988). Diplomacy and Domestic Politics: The Logic of Two-Level Games, *International Organization*, vol.42(3), pp.427-460.
- van Dijk Teun, A. (1993). *Elite discourse and racism*. Newbury Park, CA: SAGE.
- . (1997). Political discourse and racism. Describing Others in Western Parliaments. in S. H. Riggins (Ed.), *The Language and Politics of Exclusion. Others in Discourse*, pp.31-64. Thousand Oaks, CA: SAGE.
- . (1998). *Ideology: A multidisciplinary approach*. London: SAGE.
- . (2006). Discourse and manipulation, *Discourse & Society*, vol.17(3), pp.359-383.
- Wadensjo, C. (1995). Dialogue interpreting and the distribution of responsibility. *Hermes, Journal of Linguistics*, vol.14, pp.111-129.
- Шейгал, Е. И. (2004). *Семиотика политического дискурса*, Москва: Гнозис.

## 参考資料

- 「時時刻刻）交渉停滞、ちゃぶ台返し いら立つプーチン氏、突然の提案」『朝日新聞』、2018年9月13日、電子版 (<https://www.asahi.com/articles/DA3S13676159.html>)  
最終閲覧日：2021年11月25日)
- 首相の演説・記者会見など ([https://www.kantei.go.jp/jp/98\\_abe/statement/index.html](https://www.kantei.go.jp/jp/98_abe/statement/index.html))  
最終閲覧日：2021年11月25日)
- 「【前提なし平和条約】プーチン氏発言に日本は静観「思いつき」、安倍晋三首相の面前に不快感も」『産経新聞』、2018年9月12日、電子版 (<https://www.sankei.com/world/news/180912/wor1809120022-n1.html>) 最終閲覧日：2021年11月25日)
- 内閣官房長官記者会見 ([https://www.kantei.go.jp/jp/tyoukanpress/201809/12\\_p.html](https://www.kantei.go.jp/jp/tyoukanpress/201809/12_p.html)) 最

終閲覧日：2021年11月25日)

「露大統領の唐突な提案領土交渉の「てこ」を失う」『毎日新聞』、2018年9月14日、  
電子版 (<https://mainichi.jp/articles/20180914/ddm/005/070/024000c> 最終閲覧  
日：2021年11月25日)。

Власти Японии не поддержали идею Путина о мирном договоре без условий. (2018.09.12).  
*РБК*. (Retrieved 2021.11.25 from <https://www.rbc.ru/politics/12/09/2018/5b98efd39a794724b0f74365>)

Путин предложил Токио мир. Почему японцы отказались. (2018.09.12). *РИА Новости*.  
(Retrieved 2021.11.25 from <https://ria.ru/20180912/1528390641.html>)

Россия и Япония встали на повороте. (2018.03.22). *Коммерсант*. (Retrieved 2021.11.25  
from <https://www.kommersant.ru/doc/3579609>)

Стенограммы пресс-конференций Президента РФ. (Retrieved 2021.11.25 from [http://kremlin.ru/events/president/transcripts/press\\_conferences](http://kremlin.ru/events/president/transcripts/press_conferences))

#### トランスクリプト記号一覧

[	発話の重なるの開始
hh	笑いを示す記号。笑い音の相対的長さは h の数で示す。
(数字)	丸括弧内の数値は、その位置にその秒数の間隙があることを示す。
(文字)	ジェスチャーなどの解説
下線部 / フレーム	分析上の焦点